

自分でつくる、
国際分散投資。

新生パワーダイレクト年金

新変額個人年金保険（無配当）＜特別勘定グループ（PD型）＞

月次運用実績レポート

2012年11月

特別勘定[ファンド]の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本成長株式型(PD)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
日本店頭・小型株式型(PD)	インベスコ店頭・成長株オープンVA1 (適格機関投資家私募投信)	インベスコ投信投資顧問株式会社
日本株式INDEX型(PD)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
海外株式INDEX型(PD)	インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ ファンドI (適格機関投資家専用)	インベスコ投信投資顧問株式会社
エマージング株式型(PD)	HSBC チャイナファンドVAⅡ号 (適格機関投資家専用)	HSBC投信株式会社
日本債券型(PD)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
世界債券型(PD)	グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用)	国際投信投資顧問株式会社
海外高利回り債券型(PD)	高利回り社債オープンVA (適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(PD)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>



〒103-8303 東京都中央区日本橋室町2-4-3
新生パワーコール 0120-456-860



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

運用方針

日本成長株式型(PD)

日本の成長企業の株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本成長株式型(PD)	3.59%	5.67%	9.13%	8.13%	▲ 47.94%

特別勘定資産

	構成比(%)
現預金等投資信託等	5.3% 94.7%
合計	100.0%

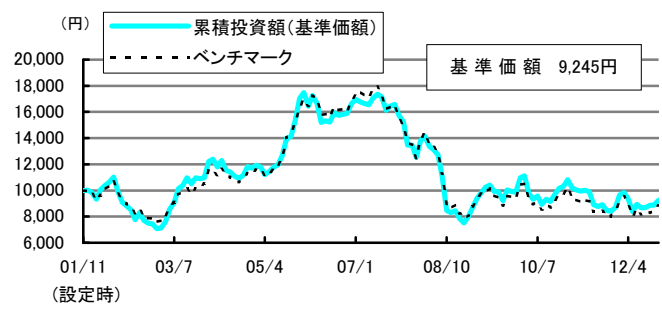
【参考】日本成長株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。

設定来の運用実績 (2012年11月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

<運用コメント>

11月の東京株式市場は、月半ばから反発し、月末にかけて大きく上昇しました。米大統領選挙を間近に控えて様子見姿勢が強まる中、月初めの株価は方向感に欠ける展開でした。オバマ大統領の再選が決まると、大型減税の終了と歳出の削減が重なる「財政の崖」問題への警戒感から米株が急落、欧州連合(EU)がユーロ圏の経済成長率見通しを引き下げたことも嫌気され、日本株も値を崩しました。しかし、月半ばに野田首相が衆議院解散を表明、新政権は自民党が中心となり日銀に対して金融緩和と圧力を高めるとの思惑から円高修正が加速すると、日本株は独歩高の様相となりました。その後、住宅関連の米マクロ経済指標が市場予想を上振れたことや、ユーロ圏がギリシャ向け支援融資の再開で合意したことなどが追い風となり、日本株は続伸したものの、月末にかけては戻り売りが上値を抑えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+5.28%、日経平均株価は+5.80%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2012年10月31日現在)

<資産別組入状況>

株式	95.6%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.6%
現金・その他※	3.8%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」(2.7%)を含みます。

<市場別組入状況>

東証1部	86.0%
東証2部	0.1%
ジャスダック	0.7%
その他市場	9.5%

<組入上位5業種>

輸送用機器	9.3%
電気機器	9.3%
銀行業	8.0%
卸売業	7.7%
機械	7.0%

(対純資産総額比率)

未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

商品概要	
形態	追加型投信／国内／株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年11月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	3.88%	6.25%	10.31%	9.21%	▲ 7.55%
ベンチマーク	5.28%	7.88%	9.90%	9.87%	▲ 11.93%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ ベンチマーク: TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)

第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円

純資産総額 631.0 億円 (2012年11月30日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2012年10月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	ミズグループ本社	卸売業	3.6%
2	任天堂	その他製品	3.3%
3	オリックス	その他金融業	3.0%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.9%
5	トヨタ自動車	輸送用機器	2.4%
6	クボタ	機械	2.4%
7	マキタ	機械	2.4%
8	本田技研工業	輸送用機器	2.3%
9	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.2%
10	大和工業	鉄鋼	2.0%

(組入銘柄数: 166) 上位10銘柄合計 26.5% (対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本店頭・小型株式型(PD)

運用方針

日本の中小企業株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本店頭・ 小型株式型 (PD)	1.17%	4.13%	4.60%	▲ 2.37%	▲ 61.60%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等 投資信託等	4.4%
	95.6%
合 計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2003年10月15日)を「100」として指数化したものです。

【参考】日本店頭・小型株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載
インベスコ店頭・成長株オープンVA1(適格機関投資家私募投信)
(運用会社:インベスコ投信投資顧問株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
インベスコ店頭・ 成長株オープンVA1	1.34%	4.67%	5.45%	▲ 1.27%	▲ 4.18%
JASDAQ インデックス	2.10%	6.51%	8.02%	14.62%	▲ 28.29%
差 異	▲ 0.76%	▲ 1.84%	▲ 2.57%	▲ 15.89%	24.10%

※「設定来」の値は、当ファンドがマザーファンドの買付を開始した2003年10月15日以降のリターン値です。
※ 基準価額の騰落率は、課税前分配金込のデータを元に算出しております。
※ 基準価額は信託報酬(純資産総額に対して年率0.735%(税抜0.7%))控除後の数値です。

＜市場別組入状況＞

市場名	比率
東証一部	64.6%
東証二部	5.3%
JASDAQ	8.5%
その他市場	17.5%
現金・その他	4.2%

※マザーファンドベース

＜組入上位業種＞

業 種 名	比率
1 電気機器	17.0%
2 情報・通信業	15.7%
3 サービス業	15.1%
4 小売業	10.0%
5 精密機器	5.2%

※マザーファンドベース

＜資産構成＞

	構 成 比
株式	95.8%
その他の有価証券	0.0%
現預金等	4.2%
合計	100.0%
純資産総額	14.06億円

※マザーファンドベース

※当ファンド

＜組入上位10銘柄＞(銘柄数 55銘柄)

	銘 柄 名	業 種	比率
1	ワコム	電気機器	4.0%
2	遠藤照明	電気機器	3.7%
3	Jトラスト	その他金融業	3.7%
4	ディー・エヌ・エー	サービス業	3.3%
5	朝日インテック	精密機器	3.1%
6	エンブラス	電気機器	3.0%
7	あい ホールディングス	卸売業	2.9%
8	ショーボンドホールディングス	建設業	2.8%
9	光通信	情報・通信業	2.7%
10	ダイコク電機	機械	2.7%

※マザーファンドベース

＜運用コメント＞

＜市場概況と運用状況＞

11月の中小型株式市場は、堅調な展開となりました。衆議院の解散が行われて政権交代が意識される中で、自民党安倍総裁の発言に注目が集まり、積極的な金融緩和が期待されたことなどを背景に、株式市場は月半ばから月末にかけて上昇しました。同時に円安／米ドル高での推移が続き、これまで冴えなかった輸出関連銘柄の株価も回復しました。投資家のリスク許容度が改善し、個別銘柄への物色意欲が高まったことで、株価が上昇する銘柄が増加し、新興市場の売買代金も増加しました。

11月の運用では、引き続き今年度の利益成長モメンタムに基づいて保有銘柄の入れ替えを行いました。

＜今後の見通しと運用方針＞

今後の中小型株式市場は強含みの展開を想定しています。総選挙までは現在の金融緩和と円安を好感する株式市場の推移が続くと思われますが、総選挙後は新政権の財政出動と規制緩和を中心とした成長戦略に注目点が移ると考えています。主力株に過熱感が出て株価の上昇傾向が一服すると、資金循環が活発になり、個別銘柄物色の基調が再度強まると見込んでいます。

以上の投資環境の見通しの下、今後の運用では、業績モメンタムなどを考慮しながら、引き続き保有銘柄の入れ替えや組入比率の調整などを行う方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株式INDEX型 (PD)

運用方針

日経平均株価に連動した投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株式INDEX型 (PD)	5.38%	6.90%	10.16%	11.91%	▲ 42.61%

特別勘定資産

	構成比 (%)
現預金等 投資信託等	4.5% 95.5%
合 計	100.0%

【参考】日本株式INDEX型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	3ヵ月間	6ヵ月間	1年間	3年間	設定来
インデックス225VA	7.61%	11.47%	13.95%	1.94%	1.12%
日経平均株価 (225種・東証)	6.86%	10.57%	11.99%	0.36%	0.07%
差異	0.75%	0.89%	1.96%	1.59%	1.06%

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

＜純資産総額＞

純資産総額 133.21億円

＜株式組入上位10業種＞

	業種名	ファンドのウェイト
1	電気機器	18.87%
2	小売業	10.40%
3	情報・通信業	9.49%
4	医薬品	7.33%
5	輸送用機器	7.15%
6	化学	6.30%
7	食料品	4.87%
8	機械	4.53%
9	建設業	3.35%
10	精密機器	3.17%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

＜株式組入上位10銘柄＞

	銘柄名	ファンドのウェイト
1	ファーストリテイリング	7.84%
2	ファナック	5.82%
3	ソフトバンク	3.88%
4	京セラ	3.18%
5	KDDI	2.55%
6	本田技研工業	2.29%
7	信越化学工業	2.03%
8	キヤノン	1.81%
9	セコム	1.77%
10	アステラス製薬	1.75%

(組入銘柄数: 225)
※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

＜資産構成＞

株式	98.77%
一部上場	98.77%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.80%
株式実質	99.58%
現金その他	1.23%

※当ファンドの実質の組入比率です。

＜運用コメント＞

11月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス5.80%と上昇しました。
米国の堅調な経済指標の発表を受けて小高き始まった後、ギリシャ議会による歳出削減法案の採決、中国共産党大会、米国の大統領選挙など重要イベントを控えた様子見姿勢から、株価は中旬まで下落しました。その後、衆議院の解散、12月の総選挙の実施が伝わると、政権交代により日銀に対する追加金融緩和圧力が強まるとの見方などから円安が進行し、株価は上昇に転じました。月末にかけては、中国の製造業景況感の改善や米国の「財政の崖」回避への期待感などから上げ幅を広げました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式INDEX型(PD)

運用方針

日本を除く外国株式インデックスに連動した投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式INDEX型(PD)	3.88%	8.23%	16.53%	23.20%	▲ 24.03%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等投資信託等	3.4%
	96.6%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】海外株式INDEX型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ファンドI(適格機関投資家専用)

(運用会社:インベスコ投信投資顧問株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ファンドI	4.08%	8.75%	17.75%	25.45%	17.37%
MSCIコクサイ・インデックス	3.88%	8.28%	16.67%	22.77%	-
差異	0.20%	0.47%	1.07%	2.68%	-

※ファンドの騰落率は、課税前分配金込みの基準価格をもとに算出しています。
※ベンチマークの累積リターンは、ファンドの基準価額算出方法と同一基準(基準日前日の各外貨建資産を基準日の各通貨毎のTTMLレートで評価する方法)で月次ベースでのみ算出しています。尚、2009年5月1日より日次ベースでの算出に変更しています。

＜純資産総額＞

純資産総額	2,121 (百万円)
-------	-------------

＜資産配分＞

外国株式	96.9%
先物取引	3.0%
現金その他	0.1%
組入総銘柄数	1,315

※外国株式には、外国投資信託証券などが含まれています。

＜組入株式上位10銘柄＞

	銘柄	国	業種	比率
1	APPLE	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.3%
2	EXXON MOBIL	アメリカ	エネルギー	1.7%
3	GENERAL ELECTRIC	アメリカ	資本財	0.9%
4	NESTLE-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.9%
5	INTL BUSINESS MACHINES	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.9%
6	CHEVRON	アメリカ	エネルギー	0.9%
7	MICROSOFT	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.9%
8	AT & T	アメリカ	電気通信サービス	0.8%
9	PROCTER & GAMBLE	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.8%
10	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.8%

※国名は、MSCI構成国で区分しています。
※業種は、MSCI世界産業分類基準の産業グループに準拠しています。ただし業種の情報が入手できない銘柄については、委託会社の判断により独自に分類していることがあります。

＜株式組入上位5カ国＞

国	比率
アメリカ	56.1%
イギリス	10.2%
カナダ	5.2%
フランス	4.2%
スイス	4.0%

＜株式組入上位5業種＞

業種	比率
金融	19.2%
情報技術	11.7%
生活必需品	11.0%
エネルギー	10.9%
ヘルスケア	10.7%

＜運用コメント＞

- ① 米国
11月末のNYダウ工業株30種平均指数は13,025.58(前月末比▲0.5%)、S&P500種指数は1,416.18(前月末比+0.3%)、ナスダック総合指数は3,010.24(前月末比+1.1%)となりました。
11月の米国株式市場は前半から中旬に下落しましたが、月後半に前月末とほぼ同水準まで回復しました。月初めは好調なマクロ経済指標を好感して上昇しました。しかし、大統領・議会選挙においてオバマ大統領が再選される一方で共和党が議会下院の過半数を占めると、増税と財政支出の削減からなるいわゆる「財政の崖」問題に対する対応が不安視され、イスラエルによるパレスチナ空爆なども相まって月半ばまで下落しました。16日にオバマ大統領と議会指導者の間で増税と歳出削減に関する協議が行われ、妥結に向け前向きなコメントがなされると、「財政の崖」回避の期待感から反発し、その後も住宅関連指標の改善や好調な年末商戦などを背景に上昇基調で月末を迎えました。
- ② 欧州
11月末の英国FT100指数は5,866.82(前月末比+1.5%)、ドイツDAX指数は7,405.50(前月末比+2.0%)、フランスCAC40指数は3,557.28(前月末比+3.7%)となりました。
11月の欧州主要株式市場は上昇しました。月前半は、米国の「財政の壁」に対する懸念や、欧州委員会によるユーロ圏の経済成長見通しの引き下げなどを背景に、株式市場は軟調に推移しました。しかし月の後半になると、ユーロ諸国と国際通貨基金(IMF)によるギリシャ支援策が合意に至ったとの報道などから株式市場は上昇に転じました。中国の経済指標が堅調な内容となったことや、ドイツで発表された企業景況感指数が改善したことも、市場心理を支えました。月末にかけても上昇基調は維持され、月の前半の下落分を上回り、前月末比プラスの株価水準で月末を迎えました。
- ③ アジア
11月末の香港ハンセン指数は22,030.39(前月末比+1.8%)、シンガポールST指数は3,069.95(前月末比+1.0%)、オーストラリア全普通株指数は4,518.03(前月末比▲0.4%)となりました。
11月のアジア主要株式市場は、月前半に大きく下落しましたが後半に入ると反転上昇しました。月前半は、米国大統領・議会選挙の結果を受けて米国の「財政の崖」問題への懸念が拡大したことや、ギリシャへの金融支援策に関する不透明感などから、リスク回避的な姿勢が強まり、欧米市場と連動して下落しました。しかし、月後半にはそれら懸念事項に対する要人のポジティブな発言などから楽観的な見方が広がり株価は反発しました。中国の景気指標が改善を示したことなどから香港、シンガポール市場は前月比プラスとなりましたが、エネルギー関連株が下落したオーストラリア市場は月間でマイナスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称	エマージング株式型(PD)
運用方針	新興成長国企業の株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニットプライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
エマージング株式型(PD)	5.40%	18.95%	16.23%	19.30%	▲ 2.61%

特別勘定資産

	構成比(%)
現預金等 投資信託等	3.9% 96.1%
合 計	100.0%

【参考】 エマージング株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用) <運用コメント>
(運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBC チャイナファンドVAⅡ基準価額の推移(設定来)
2004年10月4日～2012年11月30日



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)
2004年10月4日～2012年11月末日



上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)
2004年9月30日～2012年11月末日



※ 設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)

2004年10月4日～2012年11月30日

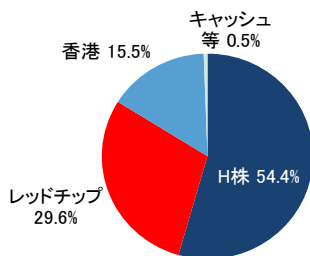


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーク

業種別組入れ比率

業種名称	比率
銀行	26.1%
エネルギー	22.5%
保険	8.0%
電気通信サービス	7.4%
不動産	6.9%
資本財	6.9%
ソフトウェア・サービス	5.4%
素材	4.4%
消費者サービス	4.1%
公益事業	2.9%
自動車・自動車部品	2.6%
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.8%
その他	0.5%
キャッシュ等	0.5%
合計	100%

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

【11月の株式市場:株価は小幅高】

中国株式市場は、香港市場ではH株指数が前月末比+0.4%、レッドチップ指数が同+4.5%となりました。上旬は、米国の「財政の崖」問題を巡る不透明感などから、投資家のリスク回避志向が目立ちましたが、中旬以降は、国内では景気回復期待、国外ではギリシャ向け金融支援の合意などが買ひ材料視され、株価は上昇に転じました。また、中国共産党第18回全国代表大会で新たに政治局常務委員7人が選出され、政治的不透明感が後退したこともプラス要因でした。セクター別では、堅調な市況、成約件数の増加が好感された不動産の上昇が目立ちました。

【運用状況:基準価額の騰落率は+5.8%】

基準価額の騰落率は+5.8%と、参考指標のMSCIチャイナ10/40の+5.4%(円ベース)を上回りました。セクター別では一般消費財をオーバーウェイトとしたことや、ヘルスケアをアンダーウェイトとしたことがプラス寄与しました。個別銘柄では組み入れ上位銘柄である、不動産の華潤置地(China Resources Land)、合景泰富地産(KWG Property Holding)、鉄道インフラ建設の中国鉄建(China Railway Construction)、原油採掘の昆侖能源(Kunlun Energy)などの上昇がプラス要因でした。また、香港ドルの対円相場が10.28円から10.6円と3.1%の香港ドル高/円安方向に振れたこともプラス要因でした。

【経済状況:本格的な景気回復の兆し】

10月の主要経済指標はインフレが沈静化する中で、生産や消費が持ち直していることを示しました。鉱工業生産指数の伸び率は9月の前年同月比+9.2%から同+9.6%に、また小売売上高は同+14.2%から同+14.5%へと緩やかに拡大しました。一方、消費者物価指数は同+1.9%から同+1.7%へと鈍化した一方、生産者物価指数は同-3.6%から同-2.8%とマイナス幅が縮小、生産水準の持ち直しに伴い、原材料需要が回復していることが窺われました。また、11月のHSBC製造業購買担当者指数(PMI)は50.5と、分岐点である50を13ヶ月振りに上回りました。当社は、中国の景気回復は本格化しており、実質国内総生産(GDP)成長率は7-9月期の前年同期比+7.4%で底打ちし、2012年は政府目標の+7.5%を上回る成長率を確保、2013年は+8~8.5%前後の成長率を達成すると見えています。

【2013年の株式市場:新たな経済政策が鍵】

2013年は、中国株式市場に対する関心が一段と高まる年になると考えられます。前述の通り、景気が本格的な回復に向かうと見られることに加え、3月には習近平国家主席、李克強首相の新政権が発足し、李克強氏が、都市化促進、経済改革を促すために、新たな政策を積極的に打ち出すことが予想されます。また、中国人民銀行総裁は、低金利政策を今後も継続すると発言しています。さらに、株価収益率(PER)などのバリュエーションが歴史的な低水準にあることも投資妙味を高めています。

【投資戦略:セクター別では景気敏感株を选好】

セクター別では、一般消費財、インフラ関連を引き続き選好します。一般消費財では、需要の高いスポーツ用多目的車(SUV)を得意としている自動車銘柄、インフラでは、政府により投資額が引き上げられた鉄道関連銘柄に注目しています。さらに、国外における石油・ガス探査に積極的な投資を行い、長期的な恩恵を受けると見られるエネルギー関連銘柄もポジティブに見えています。

※ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

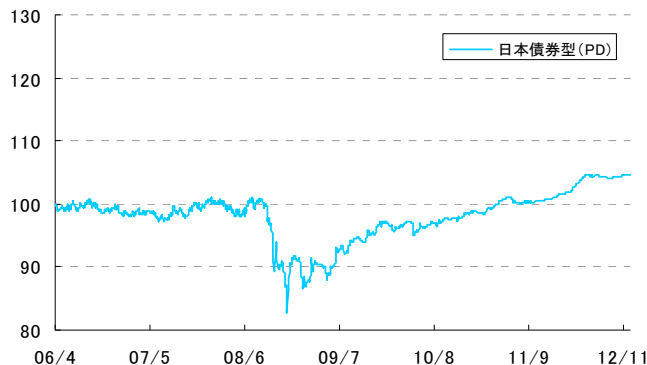
特別勘定名称

日本債券型(PD)

運用方針

日本の物価連動債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライス騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型(PD)	0.04%	0.46%	▲ 0.07%	3.97%	4.55%

特別勘定資産内訳

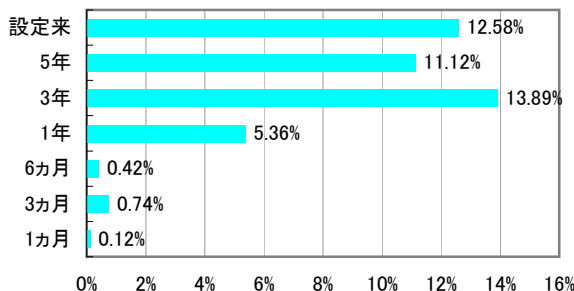
	構成比(%)
現預金等 投資信託等	5.7% 94.3%
合 計	100.0%

【参考】日本債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<基準価額騰落率・累積収益率>

※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものと算出。
※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<資産構成比率>

国内債現物組入銘柄数	7銘柄
公社債の平均残存期間	4.23年
国内債現物	95.7%
国内債先物	0.0%
その他資産	4.3%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。
※組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。月末の設定・解約の影響により、一時的に100%を超える場合があります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第16回利付国債(物価連動・10年)	1.400%	2018/06/10	40.1%
2	第12回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2017/06/10	25.2%
3	第4回利付国債(物価連動・10年)	0.500%	2015/06/10	15.2%
4	第5回利付国債(物価連動・10年)	0.800%	2015/09/10	7.2%
5	第1回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2014/03/10	6.5%

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年以上3年未満	30.4%
3年以上7年未満	65.3%
7年以上10年未満	0.0%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

第16回物価連動国債の複利利回りは、11月末でマイナス0.4%台後半と10月末比低下しました。

第16回物価連動国債とほぼ同じ残存期間の10年長期国債(第293回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初0.7%台前半で始まり横ばいで推移しましたが、月末にかけてやや縮小し、0.7%程度で月末を迎えました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の11月末の連動係数は、10月末比0.1%~0.2%程度の上昇となりました。

■先月の運用概況

物価連動国債の実質組入比率は高位を維持しました。また、実質的に組入れている物価連動国債の平均残存期間は4.23年としております。

かかる運用の結果、名目金利が低下したことや、物価連動国債の連動係数が上昇したこと等がプラスに寄与したことから、当ファンドの11月末の基準価額は11,099円と前月末比13円上昇しました。

■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPI10月分の前年比は±0.0%となりました。今後も暫くはゼロ%近傍で推移するものと見込みます。

また、衆議院の解散・総選挙となることで、選挙後の新政権がどのような物価見通しに基づいた政策運営を行うのか、消費税増税へはどのように対応するのか等も注目して参ります。

物価連動国債市場の需給面では、今後も、財務省の物価連動国債買入消却継続を含めた動向や、物価連動国債発行再開に向けた動きがより具体化してくるのどうか注視して参ります。

引続き需給動向及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

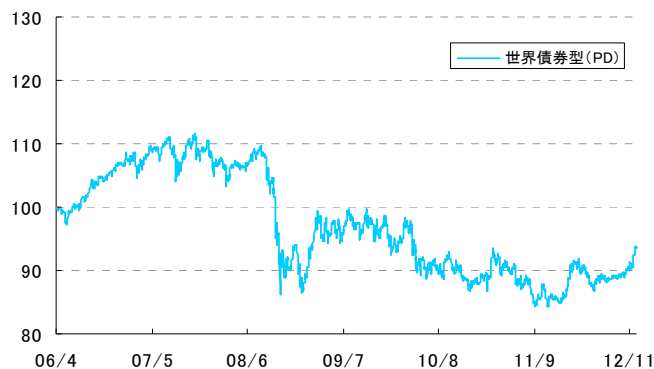
特別勘定名称

世界債券型(PD)

運用方針

日本を含む世界の公社債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
世界債券型(PD)	3.57%	5.20%	7.58%	9.95%	▲ 6.30%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等 投資信託等	2.4% 97.6%
合 計	100.0%

【参考】世界債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社: 国際投信投資顧問株式会社)

<基準価額の騰落率> (課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年間	3年間	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	3.8%	5.7%	8.5%	11.6%	1.8%	23.3%
シティグループ世界国債インデックス	3.0%	5.5%	6.8%	10.0%	3.7%	28.3%
差異	0.8%	0.1%	1.7%	1.6%	▲ 1.9%	▲ 5.0%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。

※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。

※シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。

<純資産構成比率>

債券合計	99.6%
現金+現金+その他	0.4%
合計	100.0%

<債券組入上位10銘柄>

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) カナダ国債	4.2%	カナダドル	16.5
(2) カナダ国債	3.8%	カナダドル	20.5
(3) アメリカ国債	3.3%	USドル	9.0
(4) 欧州投資銀行(EIB)	2.8%	豪ドル	6.7
(5) オーストラリア国債	2.7%	豪ドル	8.5
(6) アメリカ国債	2.6%	USドル	7.7
(7) イギリス国債	2.5%	英ポンド	16.0
(8) アメリカ国債	2.0%	USドル	6.4
(9) フランス国債	1.9%	ユーロ	6.9
(10) アメリカ国債	1.8%	USドル	8.5

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入通貨配分比率>

通貨	ウェイト
USドル	22.2%
ユーロ	11.8%
英ポンド	3.6%
日本円	6.8%
その他	55.5%

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

11月の債券市場では、ドイツなどの中核国を含むユーロ圏各国で景気減速の傾向が強まっていることから、欧州中銀(ECB)による金融緩和が継続するとの観測が高まり、ドイツ国債などの利回りが低下しました。また、為替市場では、日銀に追加的な金融緩和を求める声が強まるとの観測などから、円が主要国通貨に対して下落しました。当ファンドは、デレレーションについてはベンチマークに対してほぼ中立としました。国別配分については、オーストラリア、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、ポーランド、メキシコをオーバーウエイトとし、米国、ユーロ圏、日本をアンダーウエイトとしています。

<今後の運用方針>

デレレーションについては、緩和的な金融政策が実施されている米国などでベンチマークに対して長めを維持するものの、ポートフォリオ全体ではほぼ中立とする方針です。国別配分については、欧州債務問題への懸念が後退する中で、欧米の中央銀行が緩和的な金融政策を継続していることなどから、米ドルやユーロ、円などに対して相対的にファンダメンタルズが良好な豪ドルやカナダドル、北欧通貨や成長力が高いメキシコペソ、ポーランド・ズロチなどが上昇するとみており、これらの通貨のオーバーウエイトを継続する方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外高利回り債券型(PD)

運用方針

米国の高利回り事業債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外高利回り債券型(PD)	3.35%	7.36%	12.22%	23.50%	14.49%

特別勘定資産内訳(申込ベース)

	構成比(%)
現預金等投資信託等	2.9%
	97.1%
合 計	100.0%

【参考】 海外高利回り債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

高利回り社債オープンVA(適格機関投資家専用)

(出所:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
高利回り社債オープン	3.6%	8.0%	13.5%	26.3%	33.9%

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

<ポートフォリオ特性値>

平均格付	B
平均クーポン	7.4%
平均直利	7.3%
平均最終利回り	6.9%
平均デュレーション	4.3年

・平均格付とは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

・デュレーション：金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。

<業種別配分>

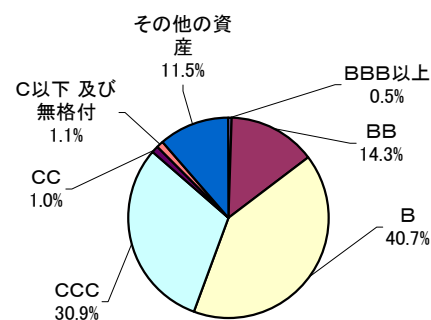
業種	純資産比
通信	10.4%
石油・ガス	8.8%
ヘルスケア	8.0%
金融	6.4%
建設	5.5%
その他の業種	49.6%
その他の資産	11.5%
合計	100.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<純資産総額>

純資産総額 0.6億円

<格付別配分>



※格付はS&P社あるいはムーディーズ社のいずれかの格付機関の低い方の格付によります。格付がない場合は投資顧問会社が同等の信用度を有すると判断した格付によります。

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※上記のポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等(現金を含む)の各特性値(クーポン、直利、最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したもので、現地通貨建て。また格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。

<組入上位10銘柄> (組入銘柄数 721 銘柄)

	銘柄名	クーポン	業種	格付	純資産比
1	SPRINT CAPITAL CORP	8.750%	通信	B	1.2%
2	INEOS GROUP HOLDINGS SA	8.500%	化学	CCC	1.0%
3	PEABODY ENERGY CORP	6.250%	非鉄・無機製品	BB	0.7%
4	HD SUPPLY INC	11.500%	建設	CCC	0.7%
5	PETCO HOLDINGS INC	8.500%	小売り	CCC	0.6%
6	FIRST DATA CORPORATION	11.250%	電機	CCC	0.6%
7	SPRINT NEXTEL CORP	6.000%	通信	B	0.6%
8	INTELSAT LUXEMBOURG SA	11.250%	通信	CCC	0.6%
9	FMG RESOURCES AUG 2006	8.250%	鉄鋼	B	0.5%
10	HUB INTERNATIONAL LTD	8.125%	金融	CCC	0.5%

<運用コメント>

●投資環境

米国ハイ・イールド債券市場は、米国の経済指標が概ね良好だったことなどを背景に、月初は堅調に推移しました。その後、米国の減税失効と歳出削減が重なる「財政の崖」に対する懸念が高まり、投資家のリスク回避姿勢が強まる場面もありましたが、米大統領が財政問題について楽観的な発言をしたことや、一部の米住宅関連指標が良好だったことなどから、月間では、米国ハイ・イールド債券は値上がりしました。

●運用経過

月間の基準価額(分配金再投資)の騰落率は、+3.6%になりました。保有していたハイ・イールド債券が上昇したこと、ドル・円の為替レートが前月末と比べて円安となったことがプラスに作用しました。月末の組入比率は高位組入れを維持し、88.5%となりました。業種別配分は、通信や石油・ガスなどを上位としました。

●今後の運用方針

米国ハイ・イールド債券市場は、欧州債務危機への懸念は残るものの、発行体の財務状況が全体的に改善していることや、デフォルト(債務不履行)率が低位にとどまっていることなどから、当面は堅調に推移すると考えられます。また、低金利政策の継続が見込まれることから、投資家の高利回り資産への需要が高まり、市場を支えそうと考えられます。欧州債務危機や米経済動向といった、市場にとっての不安定要因については注視していきます。このような環境下、業種別配分、格付別配分については状況に基づき慎重に判断します。業種別配分については、自動車メーカー・自動車部品メーカーのうち米国国内でのビジネスの割合が高い企業に明るい見通しを持っています。また、天然ガス価格の下落から恩恵を受ける特殊化学セクター、内需型産業であるカジノ関連銘柄、住宅建築関連銘柄に注目しています。当ファンドでは、個別銘柄の選択にはより一層慎重に対応し、今後もキャッシュフロー(現金収支)が安定的な企業や良好な収益見通しが期待できる企業を中心に投資を行なう方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

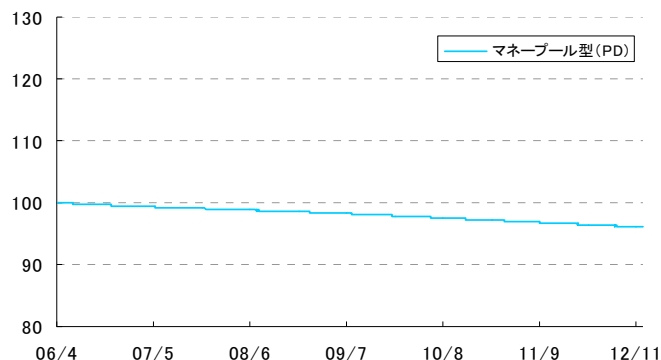
特別勘定名称

マネープール型(PD)

運用方針

日本の公社債および短期金融商品に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型(PD)	▲ 0.06%	▲ 0.17%	▲ 0.35%	▲ 0.68%	▲ 3.96%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金等	8.8%
投資信託等	91.2%
合 計	100.0%

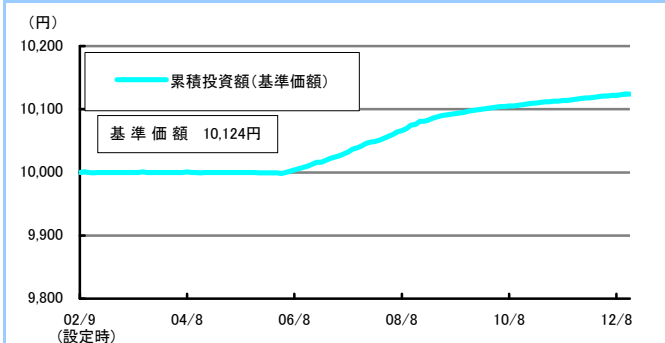
【参考】 マネープール型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2012年11月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

商品概要

形 態	追加型投信／国内／債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設 定 日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決 算 日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年11月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.00%	0.02%	0.03%	0.08%	1.24%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金 (1万口当たり／税込)

第 7期(2008.12.01)	-----	0円
第 8期(2009.11.30)	-----	0円
第 9期(2010.11.30)	-----	0円
第 10期(2011.11.30)	-----	0円
第 11期(2012.11.30)	-----	0円

純資産総額 134.4 億円 (2012年11月30日現在)

<資産別組入状況>

債券	95.2%
CP	-
CD	-
現金・その他	4.8%

<組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	95.2%
A	-
現金・その他	4.8%

平均残存日数 44.26日
 平均残存年数 0.12年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

(対純資産総額比率)

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2012年10月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第305回 国庫短期証券 2012/11/26	債券	AA/Aa	12.3%
2	第306回 国庫短期証券 2012/12/03	債券	AA/Aa	12.3%
3	第301回 国庫短期証券 2012/11/12	債券	AA/Aa	9.2%
4	第304回 国庫短期証券 2012/11/19	債券	AA/Aa	9.2%
5	第308回 国庫短期証券 2012/12/10	債券	AA/Aa	9.2%
6	第320回 国庫短期証券 2013/02/04	債券	AA/Aa	9.2%
7	第299回 国庫短期証券 2012/11/05	債券	AA/Aa	6.1%
8	第309回 国庫短期証券 2012/12/17	債券	AA/Aa	6.1%
9	第314回 国庫短期証券 2013/01/15	債券	AA/Aa	6.1%
10	第317回 国庫短期証券 2013/01/21	債券	AA/Aa	6.1%

(組入銘柄数: 13)

上位10銘柄合計 86.0%
 (対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険
「新生パワーダイレクト年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料（増額・規則的増額保険料を含む）に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%＋運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用：運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5% を超過した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 毎月500円 を積立金から控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の1%を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本成長株式型(PD) 年率0.924%程度
	日本店頭・小型株式型(PD) 年率0.735%程度
	日本株式INDEX型(PD) 年率0.4200%程度
	海外株式INDEX型(PD) 年率0.4200%程度
	エマージング株式型(PD) 年率1.176%程度
	日本債券型(PD) 年率0.252%～0.3675%程度
	世界債券型(PD) 年率0.8925%程度
	海外高利回り債券型(PD) 年率1.1025%程度
	マネープール型(PD) 年率0.008925%～0.525%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

■当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。

■新変額個人年金保険「新生パワーダイレクト年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。

■新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「新生パワーダイレクト年金」には「特別勘定グループ(PD型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(PD型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(PD型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。

■特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。

■特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。

■ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)＜特別勘定グループ(PD型)＞「新生パワーダイレクト年金」は現在販売しておりません。